

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293600076		
法人名	医療法人社団寿光会		
事業所名	グループホーム いきいきの家印西		
所在地	千葉県印西市吉高3139		
自己評価作成日	平成30年12月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成30年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を大切に「いつまでも自分らしくいられる生活」を常に考え、入居者様の訴えにすぐに答えられるように考えております。また、入居者様の笑顔を出すのは「職員」であると考えていますので、職員の皆さんから「何かやりたい」「やってあげたい」という言葉が出たらなるべく答えられることは答えて、入居者様、職員が常に笑顔で穏やかな施設作りを目標にしています。その為には、なるべく行事を多くしてみんなで作りあげたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームいきいきの家印西」は、閑静な住宅地の入り口に建っており、家庭的な雰囲気大切にしている施設である。地域行事への参加・施設行事への家族招待・地域商店の利用等、様々な形で地域や外部との交流を目指した活動を行っている。定期的に外出・外食行事を実施しており、遠方まで出掛けることも多く、戸外での様々な楽しみを支援している。また、大正琴や手芸クラブ等、パライティーに富んだボランティアが来訪しており、入居者の生活活性化にも繋がっている。毎年小学生の「職場体験」受け入れを行っており、今年度は小学生向けに「認知症」についての講習も実施する等、地域貢献にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との密着とのことで、本来は小学校の職場体験は六合小のみでしたが、本塾第一小からも依頼があり職場体験が実現しました。また、キャラバンメイトとして認知症の普及と、今度行われるクリスマス会に本塾第一小の皆さんが来ることになりました。	「いつまでも自分らしく居られる生活」という施設独自の理念を掲げており、理念を施設内に掲示し、入居者・家族・職員・外部の人達への周知を図っている。新人・現任研修や会議等を活用し、理念の周知・浸透に努めている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にご招待を致しております。また、ゴミ拾いや地域の餅つき大会等に参加させていただいております。団地の公園まで散歩等を行なっております。共同で提出した要望書が通り裏の河川の改修が行われました。	地域行事や町内イベントに参加する等、地域交流を積極的に行っている。また、地域小学生の「職場体験」受け入れ等、世代間交流の機会も多く、入居者の生活活性化に繋がっている。運営推進会議に自治会長を招待する等、施設の理解促進にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	色々な研修や資格の取得を行っており、見学に来られる方などに経験を活かして対応の仕方や悩み等に傾聴したりしている。また、認知症カフェに参加して悩み相談などに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて出た議題に関して、参加していないお客様に議事録をお配りして、要望などに瞬時に対応するようにしています。家族レターへの体重、健康診断等・	運営推進会議には包括支援センター職員・自治会長・入居者・家族等が参加して年6回開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設理解の促進及びサービスの質の向上に繋がっている。他にも、家族向けの研修も行う等、出席率の向上及び会議の形骸化防止にも取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	印西市役所の介護保険課の決まった職員が、運営推進会議に参加してくれており、またキャラバンメイトに参加するようになり、市役所職員も必ず参加するので顔見知りが増えていろんな市役所職員と会話できるようになりました。	市とは、日頃から業務全般における相談や情報交換を行う等、連携を取っている。また、市職員による運営推進会議参加があり、その都度、意見・情報交換が行われており、サービスの質の向上に活かしている。市主催の研修や勉強会に参加する等、ケアサービスの向上を図ると共に、相互に地域福祉の問題解決に取り組む体制が構築されている。	

【千葉県】グループホームいきいきの家印西

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回身体拘束防止委員会をおこなっており、職員にも、どのようなものが「身体拘束」になるか理解できるようになり、約1年近く身体拘束無しで進んでいる。また、ユマニチュードの取り入れにより法人の委員会からも良くできているので職員を出して欲しいと希望が多くある	身体拘束排除における施設方針やマニュアルを整備し、施設内に掲示している。また、内部・外部の研修も実施されていると共に、日頃から会議や申し送りなどを通じて、職員全員が身体拘束排除の意義の共通理解を図っており、身体拘束をしない支援が実践できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などの多く出ており、少しの内出血等も事故として捉え、報告をだしてもらっている。また、本部からも「まごころポスト」というポストを設置して虐待など発見したら管理者なども見れずにそのまま本部に届くような仕組みを確立している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年同様に管理者は市民後見人の資格を取得しているが、その場面が今の所は無いので特に学ぶ機会は作っていないが、今後は後見人制度等の研修にでももらうようにする予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、文章を飛ばすことなく説明しております。また、重要事項の変更等は説明を行ない、文章で同意を得ております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出た意見を基に、ユニット会議等で職員で話し合い 出来る限り要望に応えるようにしております。また、面会時等にも要望のあった要件等に対しても対応できる事は対応しております。	家族の訪問時・電話連絡時や運営推進会議等を活用し、意見・要望の把握に努めている。また、定期的に介護相談員が来訪しており、外部からの意見も傾聴している。毎月「家族レター」を送付し、入居者の日々の様子や活動状況を伝えている。挙がった意見・要望においては会議や申し送り等を活用し、周知・検討の上、適切な支援につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や、日々の業務中に出たものに出た意見をなるべく吸い上げ、職員のやる気を出してもらい、運営に反映するようにしております。	定期的に会議を開催しており、職員からの意見・提案を確認している。法人内に「ホットライン制度」や「まごころポスト」と言う、職員が法人幹部に直接、意見を伝える仕組みがあり、職員の意見の把握及び施設運営に活かしている。また、有給休暇・他施設との交流・資格取得の支援制度等、福利厚生を充実させており、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	

【千葉県】グループホームいきいきの家印西

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	本部共通の賃金の計算方式があり、夏と冬のボーナス時に個々に自己評価を行ない管理者が勤務状況を見て点数を出し、夏と冬の点数を基に次年度の基本給を出しています。やりがいに関しては、介護技術の評価表があり、それを基にレベル手当を支給しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には法人や外部の研修に多く出ています。なるべくいろんな職員に行ってもらえるように案内を定期的に出しています。また、管理者がアセッサーとして職員の介護技術の確認と評価にて給料に反映できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の講習会や研修、また キャラバンメイト等で各施設の職員との交流を行なっています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から、本人との面会等で信頼関係を築き、ご本人様とご家族様の不安を取り除き、入居後も毎日「どうですか？良く寝れましたか？」等環境が変わったことに対する不安を取り除くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際に、ご家族様からの要望、入居者様の要望等をお聞きして、細目に連絡を行ない生活状況をお伝えするようしております。月に1回の家族レターにて写真を載せご報告させていただきます。また、家族レター送付時に毎月の体重を載せ前月との比較も載せ、往診医から血液データが届けられるとそちらも送るようしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅、もしくは施設の生活状況にて利用していたサービスを基に 福祉用具や、訪問マッサージ等を導入を考えるようしております。家族や本人からも、「何をしたいか？」等をお聞きしてなるべく日々の生活に活かせるようしております。		

【千葉県】グループホームいきいきの家印西

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々 洗濯物を干したり、畳んで頂いたり、料理作りを手伝って頂いたり、職員と一緒に掃除をしたりなるべく行えることは行なって頂くようにしております。入居者様からも「何か手伝う事ない？」等言ってくださり、良く手伝っておられます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	絆を大事に考えております。誕生日会等でお寿司が食べたいという入居者様に、ご家族と職員と入居者様と一緒に食べに行ったり企画したりします。また、面会、外出、外泊の自由で自由に来て頂ける雰囲気を作っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙の支援を行ったり、面会の自由などで気軽に来て頂けるようにしております。また、なじみの場所にお連れしたりドライブなどでお連れしたりします。	友人・知人・家族の来訪を随時受け付けていると共に、外出・外泊も自由となっている。希望に応じて、手紙のやり取りも支援しており、馴染みの関係継続を支援している。また、地域の商店・公園や地域行事への参加により、地域との馴染みの関係継続も配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にフロアで過ごして頂き、フロア全体で家族のような一体感を作っております。外出する際にも必ず基本は全員で動くことを目指しております。大きな行事にはマイクロバスを借り18名全員で行動するようにしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたり、入院が長引いてしまい一度退去になられても、ご家族との連絡はとり、近隣の特養や有料老人ホームを紹介したりしてアフターケアは行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これこそグループホームの良い所であり、寝たい時には寝て頂き、もう少し寝たい時は寝てもらったり自由にして頂いております。法人内の夢プラン制度があり、入居者様の夢を叶えてあげようという制度があります。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況を確認している。また、医療機関や他サービス事業所からも情報提供を受ける等、より詳細な情報の把握に努めている。新たな情報は、会議・記録等で職員に周知しており、情報の共有に努めている。	

【千葉県】グループホームいきいきの家印西

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際にアセスメントを行ない、趣味や性格などを重要視して、寂しくならないようにフロア全体で考えなるべく実行できるようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人のADLを把握して、できる事は過度の支援はせず、なるべくやって頂くようにしております。洗濯たたみ、干し、料理の手伝い、掃除機がけ、家庭菜園等その人に合った仕事を見つけやっていただくようにしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議に際して、個人ごとの現状を話し、どのように支援したらよいか意見を出し合います。また、ご家族からの要望がありましたらできることは、なるべく受け入れるようにしております。入居者様からの希望は一番にお聞きして、ご家族に連絡などして調整などを行っております。	本人・家族の意向を基に、職員間で検討しながら介護計画の作成を行っている。必要に応じて、医師・看護師の意見も取り入れながら状況判断を行っている。定期的に計画の達成状況の確認、評価、見直しを行っており、現状に応じた介護計画に基づいた支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護の記録の記入と、業務日誌、申し送りノート等があり、情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問系のサービスの導入や、ボランティアの導入等多種多様な利用できるサービスや、今までの介護経験から経験した福祉用具の利用など提案したり、職員からの意見もなるべく取り入れるようにしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公民館や公園、スーパー等を把握して楽しんで頂けるように、職員が付添い買い物やお散歩をして頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には月に2回の訪問診療を受けておりますが、歯医者も訪問歯科が入っていますが、なじみの歯医者が良いという場合は自由に選んで頂いております。病院についても訪問医以外にも付添いをおこなっております。また、訪問医が情報提供書を迅速に記入してくれるので対応早く専門医に受診も可能である。	希望の医療機関への受診及び往診を実施しており、適切な医療受診を支援している。また、必要に応じて訪問看護師による健康管理・服薬管理・医療面における相談対応が行われており、入居者・家族・職員等の不安解消となっている。提携病院とは、緊急時・急変時には24時間体制で協力が得られるよう連携を図っている。	

【千葉県】グループホームいきいきの家印西

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の相談員とは常にライン等で、連絡を取り合い画像を送信したりして相談を行なっております。また、相談の上 訪問看護が必要と判断されると、すぐに訪問看護が診に来てくれて対応してくれるシステムができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院は訪問診療の診療所以外に日医大、印西総合病院、北総内科クリニック等と提携を結んでおり、以外の病院でも入院されたとしても細目に面会に伺い状態把握等を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り看護も行なっており、訪問医からそのような話が出たらご家族と共に今後について話し合いもしもの場合を想定して話し合うようにしています。そして、書面に残すようにして職員にも情報の共有をおこなっております。	終末期・重度化に関する指針を明文化しており、契約時に入居者・家族への説明も行われている。重度化した場合には、入居者・家族の意向を確認しながら、安心して納得が得られる支援方法の検討を行うと共に、日頃から提携病院の医師や看護師等と連携を取る等、状況の変化や希望に応じて適切な支援が行えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはユニットリーダーや管理者が対応しており、その他の場合にも管理者がアドバイスするようにしている。また、緊急時の介護などの研修にでてもらい不在時でも他の職員でも対応できるようにしたり、消防署の緊急時の蘇生の訓練などを受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、消火器の使用方法や、避難誘導の方法などを確認している。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報機・消火器等の消防設備を設置していると共に、避難訓練及び設備点検を実施している。訓練では、消防署立会訓練・消火器訓練等を行っており、状況に応じた避難方法の確認を行っている。また、職員が救命救急講習を受講しており、急変時・事故発生時における対応を身につけている。	

【千葉県】グループホームいきいきの家印西

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードを取り入れており、言葉かけ等を優しく行うようにしています。また、プライバシーの観点からは、居室の入り口に札を付け 対応の仕方や、職員が対応しています。とわかるように出来る札を全室の扉に取り付けました。	日頃から研修を通じて、入居者一人ひとりの尊厳を大切にした支援を実践している。個人情報保護、プライバシー保護、接遇に関するマニュアルを整備していると共に、研修を実施しており、意義の周知を図っている。日中は玄関のカギは施錠せず、入居者の自由な生活を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず職員が目線ではなく、本人に気持ちを聞き確認したうえで対応するようにしています。「寝ますか?」「トイレに行きますか?」など自己決定を大事にしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の気持ちを一番に「やりたくない」「入りたくない」等の時は次の日に変更したり柔軟に対応したりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後にホットタオルを渡し顔を拭いて頂いたり、櫛を使用して頂いたり、出来ない場合はこちらで支援したりしています。洋服の選びも出来る時は職員と一緒に楽しみながら選ぶようにしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備前のテーブル拭きや、おしぼりの配布等は入居者様がしてくれる時がある。また、職員も真ん中に入り食事支援や職員も食事を摂ったりしている。食事の準備時も切ったり、盛り付けなどを手伝って頂いている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。食材や献立は業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。また、定期的に外食・行事食・手作りおやつ等を実施しており、食を通じた様々な楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記入及び、栄養バランスは、宅配のタイヘイメニューを利用して食材を購入している。また、食事形態の確認と変更を行ない、食べやすい形態にしており、腎臓病食なども用意して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に職員が支援に入り、支援している。毎日夜間にポリデントにて消毒をしている。また、訪問歯科が入っており職員で出来ないところを支援してもらっている。		

【千葉県】グループホームいきいきの家印西

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前、食後には必ずトイレに行って頂き、夜間もトイレに行きたい方には声掛けにてトイレ誘導等を行ない、対応している。また、排泄パターンに合わせた声掛け等で出来る限りパットが汚染されずトイレ内にて排泄されるように支援している。	排泄チェックリストを活用しながら個々の排泄パターンを把握すると共に、声掛け・トイレ誘導を行う等、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、運動の実施・栄養バランスに配慮した食事提供・水分摂取の励行を行っており、適切な排便コントロール及び自然排便の促進に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく便秘にならないように、日々動いて頂いたりしている。排便に関しては、排泄チェック表にて出てない日数を確認して、適切な下剤の服用や医師に相談するなどして対応している。また、排便時の「の」の字の煽動運動をすることにより、なるべく自力排便をして頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、体調や希望、昔からの習慣で夜に入浴していたと云えば夕方近くに入浴介助をしたりしている。また、楽しんで頂くようにラジカセで音楽を流しながら入浴してもらったりして職員と一緒に歌を唄いながら入浴されることもある。	入浴は毎日実施されていると共に、入居者の体調・希望に応じて、柔軟に対応しながら適切な入浴機会を確保している。また、必要に応じて、清拭・シャワー浴・部分浴を行う等、入居者の清潔保持に努めている。入浴剤の活用や浴室に音楽を流す等、気持ちよく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠される時間も、「寝る」とご自分で言われるように支援しているため、23時近くまで起きておられる方もおられる。自由に入眠、また夜間も起きて来られても無理に入眠して頂かず、テレビを見たりお茶を飲まれたりゆっくりと過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は薬庫で行ない、常時鍵をかけて管理している。また、次ぎの日の薬の用意は職員二人で行ない、薬を差し上げたとしても空袋を保管しておき違う職員に残薬がないか等確認してもらっている。また、服薬リストを作成してあり、個数と効能がすぐにわかるように管理している。		

【千葉県】グループホームいきいきの家印西

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人の趣味などから、好きな事や得意な事を把握して、やっていただいている。また、今年になり「手芸ボランティア」を募集し月に2回手芸クラブをスタートして楽しんでいる。手芸クラブ以外名も時々毛糸で編み物をやってもらうこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく、外に出る機会を作っている。外出の機会が多いのがいきいきの家印西の特徴です。各月に担当者がいるので工夫を凝らし行く場所を決めています。また、お寿司屋さんなど家族と入居者様と、職員で個別にお連れしたりしています。	日頃から散歩・買い物・ドライブ等を実施し、戸外に出る機会を設けていると共に、敷地内を活用しながら気軽に外の空気を楽しめるよう配慮している。定期的に外出・外食行事を実施しており、遠方まで出掛けることも多く、戸外での様々な楽しみを支援しており、入居者や家族から好評を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月々1,500円まで自由に使用させて頂くお金が決まっており、外出時にお土産を購入したり、アイスを購入したり、また 近隣のスーパーに行きショッピングカートを押しながら、買い物を楽しむ機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい、逆に電話があれば繋いだりして対応しています。手紙などの希望があれば便箋と封筒等をお渡し手紙を書いていただく事もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節のイベントに合わせた飾り付けを行ない、職員も楽しんで積極的に行ってくれている。また、写真を多く飾り楽しい雰囲気作りをしています。食道の席や机の配置等も入居者様に合わせ居心地の良い配置になるように工夫しています。	施設内はバリアフリーとなっており、明るく開放的な空間作りがなされている。共有スペースは広さが確保されており、入居者が好きな場所でくつろげるよう配慮している。季節に合わせた装飾を施すと共に、行事の写真を掲示し、入居者・職員間で楽しみを共有できるよう工夫している。	

【千葉県】グループホームいきいきの家印西

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブル、団欒をするソファと分けており、また一人になりたいときは自由にお部屋に入れるようになっております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に一番先に説明しますが、なるべく住まれた居た時の家具やテレビ、布団等自由にお持ちくださいとお伝えします。介護施設＝ベットというイメージがあると思いますが、布団の方もおられます。写真や、時計等なじみの物を持ってきて頂いております。	本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、布団を敷く事が可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。その他にも収納スペース・鍵が設置されており、プライバシーの確保がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを各フロア4つ設置しており、居室の隣がトイレという配置になっている。また、廊下も広く、無駄な物を行ないようにしている。狭く感じ無いような作りをしており、なるべく自立して出来るようにしてある。		